

ヴェリタス学習会通信 92

予定表カレンダー →



令和6年11月の予定

- ・月曜日 11月11・18・25日 大安公民館1階研修室 18:30~21:00
4日 ヴェリタス事務局 18:30~21:00
- ・水曜日 11月6・13・20・27日 ヴェリタス事務局 18:30~21:00
- ・木曜日 11月7・14・21・28日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00~20:30
- ・金曜日 11月1・8・22・29日 北勢市民会館1階リハーサル室 18:30~21:00
- ・土曜日 11月16日 ヴェリタス事務局 18:30~21:00



藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

4日(月)は、大安公民館が保守管理日で休館になります。したがってヴェリタス事務局で行います。

15日(金)は所用があり、16日(土)の同時刻、18:30~21:00にヴェリタス事務局で行います。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。
丹生川上集会所(旧丹生川上児童館・教育集会所)内です。

大雨やその他の警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方にはLINE などでお知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。

連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189 (+メッセージも可能)

メールアドレス：npoveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay (4文字目は数字のゼロです)

Facebook の「松宮 卓」に友達申請していただければ Messenger が使えます。

メールやLINE 登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数料削減協力のため、できる限りご登録ください。LINE を利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらいと、効果的な返信ができます。



Zoom などの会議ツールを利用しませんか

今後、さらに利用が広がる Zoom クラウドミーティングや Skype, Facetime, Google Meet などを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。

杉原千畝（すぎはらちうね）記念館に行ってきました



9月下旬に、人権団体の研修で、岐阜県八百津町にある「杉原千畝記念館」に行ってきました。杉原千畝さんは、第2次世界大戦時にリトアニア領事代理として、ユダヤの人々にビザを発給し、6千人を超える人々の命を救った人物です。

現地で学んだことと、事前に調べていったことを織り交ぜて、彼の事績を簡単に紹介します。

命令に背きビザを発給

本当は杉原さんの幼少のころからの足跡と、時代背景も伝えたいところですが、省略します。

彼はロシア語が堪能で、ソ連（ソビエト社会主義共和国連邦：現在のロシアとその周辺国で構成される社会主義国家）の事情にも詳しい外交官でした。そのため日本の外務省は、ソ連の隣のリトアニアのカナウスという町に臨時領事館を設置し、彼を領事代理にします。カナウス領事館員は彼一人です。外務省が彼に期待したのは、ソ連やドイツの情報収集です。

赴任の直後、ドイツとソ連は密約を結び、ポーランドに侵入します。東半分にはソ連が、西半分にはドイツが。

当時のユダヤ人には国民国家はありませんでした。多くのユダヤ人は世界各地に散らばって住んでいました。ドイツやポーランドにも住んでいました。ドイツではナチスの台頭により、ユダヤ人の居場所がなくなります。ポーランドも同様です。

リトアニアには、主にポーランドのユダヤ人が難民として逃れてきます。



しかし、リトアニアも安全ではありません。ドイツの勢力範囲は拡大し続けます。ユダヤ人は、日本領事館に助けを求めました。自由の国に逃れるため日本を通過できるビザを発行してくれと杉原領事代理にすがってきたのです。ビザ発行にはそれ相応の資格と多くの書類が必要です。着の身着のままで逃れてきた難民たちには用意できないものです。



杉原領事代理は日本の外務省に、ビザを発行してもよいか問い合わせましたが、良い返事はもらえませんでした。何の得にもならないのですが、放っておけないと考えた彼は、何度も何度もビザを発行したいと日本政府に伝えました。許可はもらえなかったため、彼は独断でビザを出すことを決めます。

それ以降、彼は難民にビザを発給し続けます。領事館が閉鎖になってからは、ホテルでも発行し続けます。よそに移ることになり、乗り込んだ列車の中でも書き続けたそうです。窓からビザに代わる証明書を手渡ししながら、「ごめんなさい。もうこれ以上は無理です」と動き出した列車から謝ったと書かれている文献もありました。

その後、外国に脱出することができず、リトアニアやポーランドに残ったユダヤ人の多くは命を落としました。

どのように育てば彼のようにになれるのか？

リトアニアに赴任する前、杉原さんは出向で満州国の外交部にいました。しかし数年後、自ら辞職しています。「日本の若い軍人たちが、日本のためと言って、中国人にひどいことをするのが我慢できなかった。彼らは中国人を同じ人間だとは思っていなかった」という内容の話を、のちに奥さんに語ったそうです。

どこから来るのでしょうか、上司の指示に背いてまで他者のために行動する杉原さんと、自分や自分の属する組織のことしか考えない若い軍人さんの違いは。